

機能を持つ小さな粒を「膜」にして...

最近の「人工光合成」には縁遠いにもかかわらず、本ニュースレターに寄稿させていただく機会を得た。若干の戸惑いは隠せないものの、とてもありがたく思う。

さて、私の「人工光合成」の原体験は、学生の頃、身近に触れた、光合成モデル化合物としての光励起ドナー (D) -アクセプター (A) 連結分子にさかのぼる[1]。以降十年ほど、D-A間光誘起電子移動反応の光電変換への応用に積極的に関わってきた[2]。サイエンスの視点に加えて、テクニカルな興味から「機能分子の使い方」をあれこれ楽しく試していた面も多分にあったように思う。・・・